

中学1年の頃、私は茨城県西部に住んでいた。

自然に恵まれていたので、同じ歳頃の子どもたちと追跡ハイクやキャンプなどの野外活動に参加していた。追跡ハイクとは、先行者が残した手がかりをたどって、徒歩で目的地へたどり着くゲームである。数人の仲間と相談しながら、5万分の1の地図を広げながら進む。途中の課題として、三角点の頂点をフロタージュする。三角点の柱石の上に紙を置き、クレヨンでこすると、十字や石の凹凸が写し取れる。これが、通過の印となる。

加波山の雑木林でキャンプをしたこともあった。テントを張る場所を見つけ、テントを張り、溝を掘って、雨水の侵入を防ぐ。石を探してかまどを作る。じゃがいも、にんじんを切ってカレーを作る。ポリタンクの水を大事に使う。

これらの活動は、子供だけでできるわけではない。

私は、良きボーイスカウトの指導者に出会っていた。

ボーイスカウトには、技能章という一定のスキルを証明するワッペンがある。野営章、炊事章、洗濯章——60種類以上ある。それぞれ理解度や経験度合いに関する評価項目があり、それらを達成していると認められるとワッペンがもらえた。

人から言われるわけではなく、自分がやれそうな技能章を選んで、自ら学び、経験して評価してもらおう。この中年の指導者は、評価を依頼するといつでも引き受けてくれた。私は多くのスキルを身に付け、ワッペンを手に入れることに夢中になっていった。こうして、私は、学校の勉強とは違う分野で素直に成長できた。

追跡ハイクもキャンプも、この中年の指導者が周到な準備をしてくれたおかげで、私たちは楽しむことができた。当時は、そんな大人の大変さには気づかなかった。40年を経て振り返ると、いかに大変な手間をかけていただいたかがよくわかる。

中2で転校することになって、残念ながらこの指導者とはお別れになってしまった。その後、私はこの指導者ほど、柔和で誠実で受容力の高い「大人」には出会っていない。